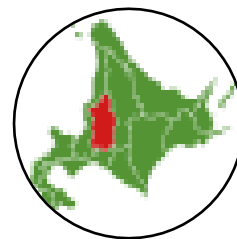


第7章 地域における環境保全の取組

＝【空知】「エコそらち」の形成に向けて



1 環境配慮意識向上の取組

空知総合振興局では、地域主導型の環境配慮型社会を目指して、地域重点プロジェクト『地域で取り組む「エコそらち」の形成』を展開し、環境配慮意識の向上を図る取組を行っています。

平成23年度は下表の事業を実施し、エコライフに関する普及・啓発を行いました。

今後も様々な普及・啓発を継続し、住民の皆さんのさらなる意識向上を図ることとしています。

■移動エコラウンジ



事業	内容	実施回数
そらちエコラウンジ	空知総合振興局におけるパネル展	6回
そらち移動エコラウンジ	パネル展等の開催	11回
環境体験学習	こども自然塾、自然観察会を開催	2回

2 夕張岳高山植物保護の取組



■電牧柵の設置作業（夕張岳）

夕張岳は、ユウバリソウなどの希少植物が多数生育していることなどから、国の天然記念物に指定されており、花の名山としても人気があります。

しかし、踏み荒しや盗掘が問題となっており、空知総合振興局では、関係機関の協力により、盗掘防止パトロールや高山植物保護の啓発のためリーフレット配布等の保護活動を推進しています。

また、近年はエゾシカによる食害が新たな課題となっているため、「エゾシカ被害防止対策協議会」が中心となって、電牧柵設置による食害防止の実験や植生調査を実施しています。

3 マガンとの共生に向けた取組

春と秋に7万羽のマガンが通過する宮島沼は、水鳥の生息地として国際的に重要であるため、平成14年にラムサール条約湿地に登録されました。

しかし、マガンの増加や農業形態の変化に伴い、沼周辺での小麦等への食害が地域課題となっています。

このため、空知総合振興局では、地元関係者等の協力を得ながら「代替採食地」※1の実証実験や「落ち穂田んぼ」※2の確保等により、飛来するマガンと環境に配慮した農産物づくりとの共生を推進しています。

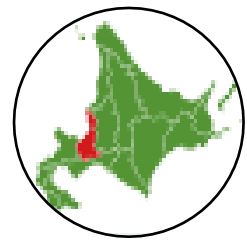
※1 代替採食地：小麦畑の代替餌場として、粕の散布等をした耕作地

※2 落ち穂田んぼ：わら搬出、耕起等の作業時期や方法の工夫により、落ち穂を残した水田

■代替採食地で採餌するマガン



＝【石狩】身近な環境問題への取組



1 「そらち・いしかりの豊かな自然環境を守ろう」宣言について

「石狩地域廃棄物不法処理対策戦略会議」では、空知・石狩地域の雄大で豊かな自然環境を廃棄物の不法投棄、ゴミのポイ捨てから守り、後世に引き継ぐことを目的とし、空知地域と共同で平成23年6月に「そらち・いしかりの豊かな自然環境を守ろう宣言」を行いました。

また、この宣言の趣旨に賛同する団体等を「そらち・いしかりクリーンパートナー」として登録する制度を設け、現在17の団体等が登録されています。

■登録団体募集の案内

すばらしい自然を守りたい

2012 そらち・いしかりクリーン・パートナー

登録団体・募集!!

わたしたちが、地域の環境を守る主役です

私たちは、昨年6月、「そらち・いしかりの豊かな自然環境を守ろう宣言」を行い、空知・石狩地域の自然を守り、育てる3つの約束を決めました。地域の良好な自然環境を守るのは、私たちみんなでかかげえない地域の環境を守ろうよ。一人ひとりの気持ちが大きな力になるんだ。できることから始められたいよ。

(3つの約束)

- 1 不法投棄・ポイ捨ては絶対にしない
- 2 不法投棄・ポイ捨ては許さない

<登録要件>

宣言の趣旨に賛同し、地域の環境保全行動に取り組み民間企業、自治会、町内会、各種組合、学校、ボランティア団体などの団体。

<主な活動>

- ・不法投棄が確認された場合の通報
- ・清掃活動など環境保全活動の実施 など

<登録された団体> (平成24年3月30日現在:17団体)

北海道産業廃棄物協会道央支部	北海道旭志学園高等学校	滝川スカイスポーツ振興協会
会田一建設(株)	札幌市農業協同組合	NTT東日本旭見沢支店
サンラク農業協同組合	札幌市森林組合	北海道電力札幌支店
石狩市農業協同組合	千歳市森林組合	
北石狩農業協同組合	石狩市森林組合	

(問合せ・連絡先)

事務局：空知地域廃棄物不法処理対策戦略会議(E-mail: sorachikankyo1@pref.hokkaido.lg.jp、電話 0126-20-0047)

石狩地域廃棄物不法処理対策戦略会議(E-mail: ishikarikankyo2@pref.hokkaido.lg.jp、電話 011-204-5823)

※登録申込書様式は、<http://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/ta/kko/> から入手できます。

2 セイウオオマルハナバチ防除研修会の開催について

野生化したセイウオオマルハナバチは、自然の生態系に悪影響を及ぼすため、石狩振興局では多くの皆様に防除活動へ協力をいただくよう研修会を開催しています。

平成23年度は、株式会社アレフとの共催により、5月に恵庭市で開催しました。当日は、20名の参加者が集まり、生態や識別方法を学んだ後、それぞれ捕虫網を使用して実習を行いました。

捕獲した頭数は31頭で、人間が持ち込み野生化した外来生物を防除することがいかに難しいかを実感する場となりました。

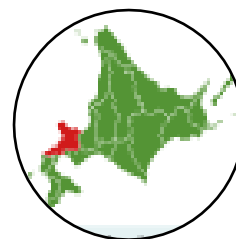
3 北海道クリーン作戦～ごみのポイ捨て禁止街頭啓発

石狩振興局では、平成23年9月28日に、JR札幌駅前ひろば及びアピア地下街において、財団法人北海道地域活動振興協会との共催により、多くの道民に「ごみのポイ捨て禁止」を呼びかけました。

■札幌駅前広場での街頭啓発



＝【後志】「しりべし」地域における環境保全の取組＝



後志地域の美しく豊かな自然環境を守り、次世代に引き継いでいくため、後志総合振興局では地域の住民の方々に参加してもらい、環境保全の普及啓発に取り組んでいます。

1 「ガイアナイト2011しりべし」の開催

7月7日の「クールアース・デー」に道南4振興局と連携し、未来の地球やエネルギーの大切さを住民の皆さんに考え行動していただくため、また、昨年3月に発生した東日本大震災で被災された地域の日も早い復興を願い、「ガイアナイト2011しりべし」を開催しました。

地域の住民の方々がそれぞれの思いを込めて作ったキャンドルの明かりの中、余市室内楽協会による演奏を聴きながら、環境保全への取組の大切さや被災地の復興に思いをよせたひとときを過ごしました。

■「ガイアナイト2011しりべし」のようす



2 環境教育「白衣レンジャー」の開催

後志総合振興局では、未来を担う子供たちに環境について考えるきっかけと、環境を含む身近な出来事に関心をもってもらうため、8月23～24日に倶知安町内の幼稚園で、環境教育「白衣レンジャー」を地方独立行政法人総合研究機構環境科学研究センターと連携し実施しました。

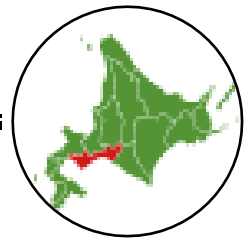
プログラムでは、実験を通して水や空気のごちの原因をわかりやすく伝えたり、自転車発電で電気を生み出すことの大変さを体験しエネルギーの有効活用を学び、絵本の読み聞かせを通じて地球上では様々な生き物に支えられて自分たちが生かされていることを、子供たちに話しかけました。

環境保全の大切さを学んだ子供たちには、レンジャー隊員証が交付され、一人ひとりが日常でもできる実践行動を誓っていました。

■環境教育「白衣レンジャー」開催のようす



＝ 【胆振】 胆振地域における地球温暖化防止 に向けた取組とエゾシカ対策



1 地球温暖化防止に向けた取組

胆振総合振興局では平成20年7月に開催された北海道洞爺湖サミットを契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを今後も継続的なものとするため、様々な取組を行っています。

(1) 「いぶりガイアナイト2011」の開催

7月7日の「クールアース・デイ」を多くの道民に地球温暖化について考え、行動するきっかけとしていただく日となるよう、むろらん広域センタービル前において、約800個のキャンドルを点灯するとともに、紙芝居や音楽鑑賞を通し、環境問題について考える時間を過ごしました。

また、室蘭の象徴でもある測量山と白鳥大橋のライトダウンを行うとともに、室蘭市内では、商店街や町内会などでもガイアナイトイベントが開催され、地域一体となったイベントを行いました。

■「いぶりガイアナイト2011」の様子



(2)NPO 法人等との協働など

管内で環境保全活動を行っているNPO法人や各団体等と協働で、地域住民を対象とした管内の環境産業を巡るエコツアーの開催や環境学習事業の実施など、多くの取組を行うことにより、地域の環境活動の充実を図りました。

■エコツアーの様子



2 エゾシカ対策

■エゾシカ肉試食会の様子



エゾシカは、胆振を含む北海道西部地域においても年々増加しており、農業被害や交通事故の多発など様々な問題を引き起こしています。

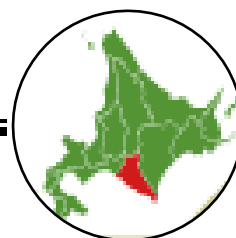
狩猟者による捕獲が進まない理由の一つとして、市場への流通が少なく、多くが自家消費でその他は、廃棄物として処理せざるを得ないことが狩猟者からのアンケートでわかっています。

このため、エゾシカ肉の調理師向け講習会、試食会等を開催することにより、有効活用促進を行いました。

このほかにも、エゾシカの捕獲に必要な狩猟免許取得促進のための出前教室を4回実施し、被害を受けている方など75人に受講していただきました。

今後、地域の方の狩猟免許取得など、地域でのエゾシカ等の有害鳥獣の捕獲体制強化が期待されています。

＝【日高】アポイ岳における高山植物保護の取組



日高山脈襟裳国定公園に位置するアポイ岳（様似町・標高810m）は、かんらん岩による超塩基性の土壌条件と寒冷な気候の影響などによって、低標高ながら稜線部に高山植生が成立しており、ヒダカソウやエゾコウゾリナなどの固有種を始め、アポイアズマギク、アポイクワガタ、サマニユキワリ、ヒダカイワザクラなど、数多くの高山植物が生育しています。

このため、アポイ岳には道内外から多くの登山者が訪れますが、一部の心ない登山者の盗掘や踏み荒らしなどによって、これらの特異ですぐれた高山植生が失われかねない状況であるため、日高

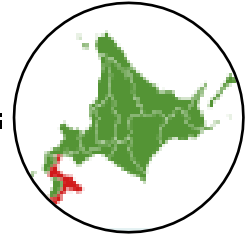
■高山植物盗掘防止キャンペーン



振興局では、地元関係機関やアポイ岳ファンクラブと連携・協力し、高山植物盗掘防止キャンペーンや合同監視、登山道へのロープ張りを行うなど、高山植物の保護に取り組んでいます。

また、アポイ岳ファンクラブなどで作る「アポイ岳再生委員会」では、絶滅の危機にあるアポイ岳の高山植物群落の再生の可能性を探る取組を進めており、五合目付近に設置した再生実験地では、平成20年度以降、アポイ岳の固有種「エソコウソリナ」の開花が確認されているほか、平成23年春には固有変種の「サマニユキワリ」の開花も確認されました。

＝【渡島】自然とのふれあいと環境学習



1 渡島大沼水質保全対策事業

美しい景観で知られる大沼国定公園は、多様な動植物の生息・生育地です。平成24年7月には、大沼をはじめとした湖沼群周辺が、ラムサール条約湿地に登録されました。

昔は泳ぐことができたといわれている大沼ですが、近年は湖水を緑色に染めるアオコが発生して景観が損なわれるなど、水質の改善が課題となっており、渡島総合振興局では、七飯町や関係団体と協力して、大沼の環境保全に取り組んでいます。

水質が悪化した原因の一つとして、沼の水位変動などにより岸辺が浸食され、水を浄化する作用がある水辺の植物が衰退してしまったことが考えられます。そこで、平成23年度は、植物が生育できる水辺を復元するため、岸辺の一部を自然の土石を使って修復し、緩やかな傾斜を作りました。陸から水中にかけてつながる自然植生の回復が期待されます。

■大沼と環境保全を訴える立て札



2 灯りを消して七夕を

函館では、クールアース・デイの7月7日が七夕にあたり、子どもたちが民家やお店を訪れ、歌を唄って菓子をもらう風習があり、昔、子どもたちがねぶた祭りのねぶたに灯すろうそくを集めた

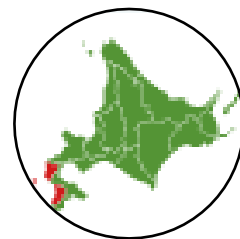
■親子向けに実施した節電を訴える寸劇



ことに由来するといわれています。この習慣に因んで渡島総合振興局では庁舎前で子どもたちにろうそくと地球温暖化についてのチラシをお菓子とともに配り、家庭での「ガイアナイト」の取組みを呼びかけました。

また、ひぐまのフロンティア君と函館市をきれいにするために活動している函館市環境部の「環境戦隊クリーンフォース」（友情出演）による節電を訴える寸劇も披露し、多くの子どもとその保護者の方々に楽しみながら地球温暖化について考えてもらいました。

＝【檜山】ひやまの豊かな環境づくりに向けて＝



檜山の豊かな自然と良好な生活環境を維持していくため、地域の皆さんの環境への関心を高める環境学習普及事業に取り組みました。

1 ひやまりサイクル工作コンクールの実施

管内の小学生を対象に、身のまわりの不要品を再利用した工作を通じて「物をできるだけ長く使う」、「資源はリサイクルする」という意識の普及啓発を目的に実施しました。

14 回目の開催となった平成 23 年度は、管内 21 校から 357 点のすばらしい作品の応募があり、管内 6 町（7 ヲ所）で作品の展示会を開催しました。

■ひやまりサイクル工作コンクール2011



2 環境学習（出前講座）とガイアナイトの開催

将来を担う子供たちに地球規模の環境問題を分かりやすく伝えたり、地域住民の地球温暖化防止等への意識啓発や実際の環境行動に繋げるため、学校や地域イベント等に職員を派遣し、出前講座を実施するとともに、ガイアナイトでは商店街協力のもと周辺の街灯を消灯しキャンドルの灯りの中で地球環境について考えながら七夕を楽しみました。

■ガイアナイトの様子



3 動物愛護“愛犬ふれあいミーティング”の開催

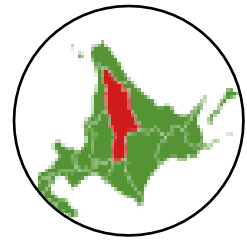
犬同士がふれあえる場所として、一般の犬の飼い主に振興局前庭を解放し、愛犬ふれあいミーティングを実施しました。

芝生の上で飼養に関する有用情報の交換をしたり、犬の社会性を向上させたりすることにより、動物の愛護と管理に関する意識を高める普及啓発を行いました。

■愛犬ふれあいミーティングの様子



＝【上川】 「エコアンドセーフティー・ドライブ キャンペーンinあさひかわ」の実施



エコドライブは交通事故防止につながるという視点から、「地球温暖化対策と交通安全」を広く地域住民に啓発することを目的に、上川総合振興局・道警旭川方面本部が中心となり、「エコアンドセーフティー・ドライブキャンペーン」を平成23年9月3～4日の2日間、イオン旭川西ショッピングセンターにおいて開催しました。

エコドライブ・デモ機器によるエコドライブ診断、電気自動車の展示、自転車シミュレーターによる走行体験、夜光反射材の展示と高齢者模擬体験を実施したほか、道警から白バイが派遣され、来場していた子供たちが白バイに乗り、記念撮影をしていました。

大型ショッピングセンターを会場としたことから、家族連れでの参加者も多く延べ1,300人が来場し、啓発の機会として非常に有効なものとなりました。

■「エコアンドセーフティー・ドライブキャンペーンinあさひかわ」の様子



エコドライブ体験



自転車シミュレーター体験

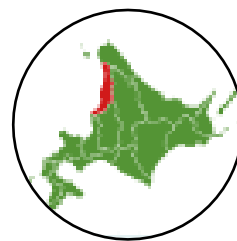


白バイと記念撮影



電気自動車の展示

＝【留萌】地球温暖化防止推進イベントの実施について＝



留萌振興局では、地球温暖化問題を多くの方が見直すきっかけとなるよう、平成23年12月18日に地球温暖化防止イベントを開催しました。

イベントでは、ドイツ人講師による環境先進国ドイツの取組をわかりやすく紹介した小学生向けの講演や北海道内の間伐材を利用したマイ箸づくり、蜂の巣屑が原材料の蜜ろうを利用した蜜ろうキャンドルづくりのほか、なるべく火を使わない保温調理の方法を実演講習した省エネクッキングなど、楽しみながらできる取組を通じて、地球温暖化防止活動の普及・啓発を図りました。

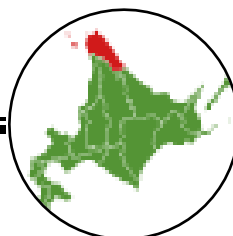
■イベントでの講演のようす



■イベントでのマイ箸づくりのようす



＝【宗谷】宗谷の自然環境保全に向けた取組



1 高山植物盗掘防止の取組

礼文島は、標高が低い場所でも身近にレブンアツモリソウなど希少種の高山植物を観察できることから、毎年多くの観光客が訪れます。

宗谷総合振興局では、希少な高山植物を守るため、関係機関と連携しながら、毎年6月と7月の2ヶ月間、「高山植物盗掘防止キャンペーン」を実施し、礼文島を訪れる観光客に対し、リーフレットの配付などを行うほか、振興局をはじめとする関係機関の職員や希少野生動植物保護監視員が盗掘監視パトロールを実施しています。

■レブンアツモリソウ



2 エゾシカ対策の実施

宗谷管内でも、エゾシカによる農林業被害や交通事故発生件数が増加傾向にあり、課題となっています。

このため、宗谷総合振興局では、地域における農林業被害の把握や、効率的な捕獲方法の検証を行うエゾシカ被害対策事業を実施し、囲いわなやくくりわなによる試験捕獲で、76頭のエゾシカを捕獲しました。

また、振興局の食堂でエゾシカ料理を提供するなど、エゾシカを有効活用する取組も進めています。

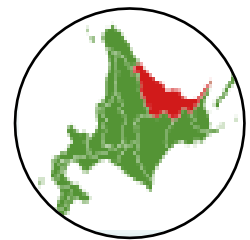


■ 囲いわなで捕獲したエゾシカ



■ 振興局食堂で提供したエゾシカシチュー

【オホーツク】オホーツク地域の 環境保全に向けた取組



1 オホーツク自然の守人（まもりびと）宣言

オホーツク総合振興局、管内全市町村及び関係機関等で構成するオホーツク地域廃棄物不法処理対策戦略会議（以下「戦略会議」という。）の取組として、不法投棄やポイ捨てを「しません」、「させません」、「許しません」を共通のスローガンに掲げ、平成21年3月に管内全市町村長の署名による「オホーツク自然の守人（まもりびと）宣言」を行いました。

戦略会議では、主要国道及び市町村庁舎等での横断幕の掲示や、「オホーツク自然の守人（まもりびと）宣言」に賛同する企業等の募集などを通じて、宣言の浸透と地域における自発的な取組の促進に向けた各種啓発を行っています。

平成24年3月末現在、54の企業等が宣言の趣旨に賛同し、自然の守人（まもりびと）として、豊かな自然環境を後世に引き継ぐため、地域の環境保全活動などに取り組んでいます。

■ オホーツク自然の守人宣言



2 網走国定公園小清水原生花園における「火入れ」

小清水原生花園は、ハマナスやエゾスカシユリなどの鮮やかな色彩の花が咲き誇る景勝地として網走国定公園に指定され、かつては特に人為的な対策をとらなくても美しい景観が維持されていました。

しかし、昭和55年頃から小清水原生花園の全域で外来牧草類が目立つようになり、優れた景観が損なわれはじめたため、平成5年から小清水町などと協力して、花の生育を妨げる枯れた牧草類を除去するために行う「火入れ」を実施し、景観の回復に努めています。

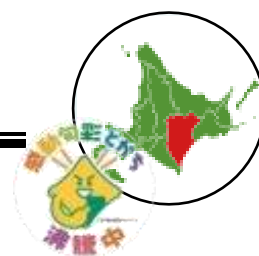
現在では、植生再生の数少ない成功例として学術的にも評価されており、全国的に注目されつつあります。

平成23年度は悪天候のため実施できませんでしたが、平成24年度は4月20日に小清水原生花園駅を中心とした1.5km幅の範囲で実施しています。

■「火入れ」の様子



【十勝】人と自然が共生する 持続可能な「とかち」をめざして



1 「もっとエコなとかちづくり」～ エコライフの定着促進をめざした取組 ～

(1) エコドライブの推進

十勝総合振興局ではCO₂削減のための身近な取組として、エコドライブの推進を行っています。自らエコドライブの実践を宣言する住民や事業所を「とかちエコドライブ」
「とかちエコドライブ」として平成20年度から募集し、平成23年度末までに約1万5千名の方が宣言しています。

■エコドライブ宣言登録証



(2) 地球温暖化対策、3Rなど、エコに関する普及啓発

多くの方が集まるイベント会場等でエコキャンドル、ソーラーカーなどを作る体験型ブースを開き、エコに関する普及啓発を行いました。

また、帯広市と協働して、地元商店街が開設しているピアガーデン会場で、十勝の味を楽しみながらキャンドルの明かりで地球温暖化のことを考えていただくガイアナイトを行いました。

■ソーラーカーづくりなどの体験学習



そのほか、地元で製造しているバイオエタノールやBDFといったエコ燃料を公用車に使用し、振興局自らエコに取り組み、これを情報発信するなど、取組の拡大を図りました。

(3) とかちエコマップ「ふわなび！」を活用した環境学習ツアーの実施

十勝管内には、地域特性を活かした環境保全型の企業や団体が数多くあり、平成22年度には、この中から視察、見学が可能な企業等を紹介させていただき「とかちエコマップ『ふわなび！』」を作成し、各種イベント等において配布しました。

また、平成23年度はこの「ふわなび！」を活用し、小学生を含む一般の方を対象にした環境学習ツアーを実施しました。

十勝管内の環境に配慮した施設を見学し、廃油を利用した体験学習等を通して身近なところから環境を考える1日となりました。

■廃油を利用した体験学習



2 エゾシカ侵入防止柵現況調査・捕獲技術等検証事業

エゾシカによる農業被害を防ぐため、十勝管内の一部の地域では、大規模なシカ柵を設置していますが、近年、再び被害が拡大しています。

そのため、緊急雇用創出推進事業を活用し、被害拡大の原因の調査（シカ柵の現況調査）とエゾシカのくくりわなによる捕獲技術の検証を実施しました。

■くくりわな設置マニュアル

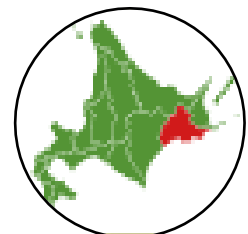


わなは96箇所を設置し、48箇所で71頭の捕獲に成功し、捕獲効率を上げるための幾つかのポイントについても習得しました。

この検証結果を活かし、被害を受けている農家自身がくくりわなでエゾシカを捕獲できるように「くくりわな設置マニュアル」を作成し、市町村職員・農協・農家・猟友会員など対象に、くくりわな捕獲セミナーを開催しました。

今後、マニュアルを地域に配布するなど活用し、捕獲技術の普及とエゾシカ被害の防止に取り組んでいきます。

【釧路】釧路・根室地域の広域連携による「自然の番人による環境行動促進事業」



釧路総合振興局は、根室振興局とともに管内の住民や企業・団体など「自然の番人」たちと連携することにより、釧路地域全体への環境行動の定着・拡大を図りました。

自然の番人による環境行動・学習事業2011～釧路の海岸線の秋を探ろう

自然の番人である住民による環境学習と環境行動により、地域の自然環境の豊かさと環境保全の

必要性についての理解を深め、環境行動の一層の拡大を図ることを目的に、平成23年10月1～2日にかけて、一泊二日のバスツアーを実施しました。

浜中町、釧路短期大学、(独)国立環境研究所地球環境研究センター等の協力をいただき、延べ37名が参加し、霧多布湿原、落石岬、春国岱等の自然観察や落石モニタリングステーションの見学を実施したほか、霧多布湿原では、道路脇のごみ拾いも行いました。

宿泊先の道立厚岸少年自然の家においては、地球温暖化メカニズムについての講習、廃油を利用したキャンドル作りの体験実習、夜間における原生林観察を行うなど、参加者にとって密度の濃い内容のイベントとなりました。

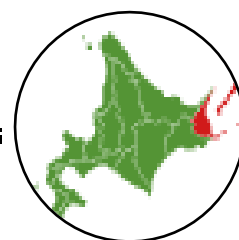
■霧多布湿原での自然観察



■地球環境センターによる講義



【根室】根室地域の多様な自然環境を 未来へ引き継ぐために



1 ねむろガイアナイト2011

平成23年7月5日に、電気を消してキャンドルの灯りのもとで、地域住民が地球のことや未来のことを考えることにより、地球温暖化防止への気運を高めることを目的として、ねむろガイアナイト2011を開催しました。

ガイアナイトでは、根室市内で活動しているジュニア・アンサンブル・ねむろや根室高校弦楽アンサンブルによる弦楽コンサートを開催したほか、地球や自然について考えてもらうきっかけとして、根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターによる「根室・春国岱は自然の宝石箱」と題した講演会を行いました。

■ねむろガイアナイト2011でのコンサート



2 地球温暖化に関する環境学習会

平成23年12月17日に、地球温暖化防止のための行動を起こすきっかけとして、廃食用油からキャンドルを作る体験学習会と地球温暖化に関する講演会を開催しました。

講演会では、地球温暖化の原因や二酸化炭素と温室効果の関係について説明を行った後、参加者が班に分かれて自分たちが取り組んでいる環境にやさしい行動について話し合い、その内容について発表することで、自分たちが具体的にどんなことをすればいいのか学んでもらえる機会となりました。

■環境学習会でのキャンドルづくり



3 「ねむろ自然の番人宣言」について



■「ねむろ自然の番人宣言」ポスター

世界自然遺産である知床やラムサール条約登録湿地である風蓮湖・春国岱、野付半島・野付湾など、根室地域は、特色ある貴重な自然環境を有しており、その恵みを受けて漁業、農業が営まれています。

廃棄物の不法投棄、ゴミのポイ捨てから自然環境を守り後世へ引き継ぐため、管内の住民が自然の番人となって立ち上がり、自らを律し行動することを目的に、平成20年2月、管内すべての市町長により「ねむろ自然の番人宣言」が調印されました。

平成24年1月16日現在、根室管内の82の企業等が「ねむろ自然の番人宣言」推進委員会の認定団体となっています。

これからも環境教育を充実させ、広くこれらの思想普及を目指し、関係機関と連携することとしています。